

平成 29 年度 12 月第 9 回美浦村定例教育委員会議事録

- 開会日時 平成 29 年 12 月 17 日（日）午後 2 時 00 分  
○閉会日時 平成 29 年 12 月 17 日（日）午後 3 時 37 分  
○開会場所 美浦村中央公民館 2 階 学習室

○出席委員

教育長 糸賀 正美  
教育長職務代理者 山崎 満男  
委員 小峯 健治  
委員 浅野 千晶  
委員 栗山 秀樹

○出席事務局職員

教育次長 中澤 眞一  
学校教育課長 菅野 眞照  
指導室長 田組 順和  
子育て支援課長 藤田 良枝  
生涯学習課長 木村 光之

○欠席委員 なし

○傍聴人 1 名

○提出議案及び議決結果

議案番号等	議 案 名 及 び 内 容	可否
報告第 1 号	美浦村民間保育所等乳児等保育事業費補助金交付要綱の制定について	—
報告第 2 号	小学校教育に関するアンケート調査について	—



【 報告第2号 小学校教育に関するアンケート調査について 】

学校教育課長より説明

【 質 疑 】

小峯委員

まず大きく二つありますが、まず文言のところ。ここに特定の学校名を入れる意味があるのかどうか。つまり、もし特定の学校名を入れるのであれば、他地区は回答する意味がなくなります。むしろこの地区でもそうした複式学級をどう考えるかという問であるとすれば、特定する必要はないと思います。もしこの特定をするのであれば、この安中小学校区の人達にきくのであれば適切だと思います。問の数についてはこのぐらいが適正だと思いますので、構成としてはいいと思いますが、この問の考え方についてはもう少し考える必要があるのではないかと。逆に安中小学校区の保護者がこれをどのようにうけとめていくかプラスになるかどうかかと思うんですね。この辺を慎重に考える必要がある。私のようにとらえる人もいれば、いや具体的にこうやった方がいいという人とおそらく相反する人がいると思います。これが一点目。

2つ目は文言のところで指摘させていただきます。問Bのところ22ページは、小学校区とあるんですが、回答票と不一致をおこしている。回答票ではお住まいの地区となっている。お住まいの間Bは小学校区、回答では地区、不一致をおこしています。

それから24ページの⑨、一人ひとりの一人と25ページの間3の⑤の1人が、漢用数字からアラビア数字になっている。この不一致があります。回答欄のところでは、問Bのところ（1つ選択）、問1（複数回答）、問4（複数回答）、問5（1つだけ選択）が隠れて表示されていませんのでここは直した方がいいと思います。

学校教育課長

まず、1問目。安中小の安中をいれる件、小峯委員ご指摘のとおり、私どもも案を用意する段階からここは非常に結論がでなかったところがございます。村長にもこういう形で実施してよろしいかということで、この教育委員会が終わった後、正式な起案文を提出します。私どもが用意した段階で、村長にもださせていただきます。村長の方針として村が、行政側がわかっている情報は提供するという指示がありました。小峯委員が言われるように、ここでお示しした際には、ご指摘があるのではと思っておりまして、表記しないという選択肢もあるかなと思っております。このアンケートは700通くらい通数が出ますが、今1学年で新生児が約100でございます。773人の子どもがいて、それを複数のお子さんがある家庭に絞りこ

むと 600 を切る通数になります。当然、大谷小学校区、木原小学校区、安中小学校区、すべての地区に出すアンケートでございますので、美浦村として複式学級が生じてしまう。村として生じてしまうことに対して、皆さんはどうお考えですかというのがアンケートの基本的な趣旨になりますので、そこで安中という言葉を使うか使わないか。今日ここでおそらくいろいろな各委員からのご意見をお聞きして、最終的には教育長にお決めいただければと事務方では思っております、今のことにしまして他の委員さんのご意見を是非お聞きしたいと思っております。行政といたしましては、村長の方針といたしまして、明確な数字として把握しているものは村民にきちっとお伝えしなさいということなので、実際に安中小学校区で平成 34 年に 2、3 年生がこのままだと複式が生じるということを行政として把握しておりますので、その事実を書くところという文章になります。是非皆様のご意見をいただきたいと思っております。あと書きぶりの一人ですとか、エクセルでずれてしまっているものは、再度起案を起す際に精査を行い間違いのないアンケートにします。

教育長

文言の整合性がとれてないところや、小峯委員から指摘のあったところは直してもらおうようお願いします。小峯委員から最初に指摘いただいた問 5 に、安中小学校と具体的に小学校の名前を入れるかどうかというところは議論があるところかと思うのですが、これについて他の委員の皆さんで何かご意見等があればお願いいたします。

浅野委員

私もその問 5 と問 6 のところで感じたことがあるんですけども、逆に問 6 が前にあって「村の教育委員会としては 1 学年 2 学級以上の規模が望ましい姿と考えていますが」と、ここにひとつ結論めいたものがまずあって、その前にこの複式の問いが出てきてしまう。

これは要するに、文科省でも 12 から 18 学級が望ましい標準的な数だっという考えが示されていたので、村としても 2 学級以上が望ましい姿と考えているならば、やはりこれは木原小でも単学級がこれから続いていくような見通しもありますので、そうすると安中小だけの問題じゃないんだなというような視点がここに示されれば、その後安中小が近々に複式になる年度まで明らかになるということも、違和感なく受け入れられるかなというふうに感じたんです。やはり問 5 にいきなりこの安中小が出てくると、他の大谷小や、木原小の学区の方は、うちは関係ないわということで、この選択肢がですね、ちょっと無責任なものにならないかなということが懸念されると思うんですね。問 6 が前にあると、そうかゆくゆくはこの学校でも生じる問題でもあるかもしれないというような、ベースの全

体像みたいなものが頭に入った上で、この安中小の具体的な問題が明らかにされるようなそういった工夫をもう少し考えていただけたらと思います。

山崎教育長職務代理者

問5に関して、安中という固有名詞が出てくるのはここだけですよね。もう一つ、今、浅野委員からあったように、問6の中では木原小という言葉が出てきますが、そういうような言葉も入れていいんじゃないかなと思います。木原小はこれからずっと、1学級なんでしょう。となるとそういうこともいれて、安中小だけじゃなくて木原小でもこういう状態だよというようなことを知らしめることも大事だと思います。この問5に関しては、やはり村全体で考えるべき中身も含んでいますから、これで私はいいいと思います。ですから、この後を村全体で考えることは何かというようなことを、やはりしっかりと具体的な中身をもって知らしめるというようなことが大事だと思います。なぜかというと1学年2学級以上の規模が望ましい姿といいます。もう現に1学年1学級となっているわけですよね。そういうことも、やはり知らしめていく必要がある。その具体的な根拠は後ろにありますよというようなことになるとと思いますので、そういう点でやはり具体的な名前も入れていいんじゃないかなと。村全体の住民が、安中小と木原小の置かれている今の状態も知るといことも大事だと思います。

浅野委員

補足になりますが、この問6の「教育委員会では」という表記も、できれば「文科省の指針として」みたいな形にしたほうが、回答される方にもわかりやすいかなという気がします。また問5は複式学級でもよいか、複式になるんだったら統廃合のほうがよいかということを知りたい間なんですか。どういった趣旨でこの問5の質問をしているのかを知りたいと思います。

学校教育課長

問5の回答の選択肢なんですけれども、先程から出ております安中小の実例をあげさせていただいた上で、複式学級に対する考え方をお尋ねしておるつもりでございます。②と①の部分、それから③と④部分がそれぞれちがしい表現なんですけれども、先程から出ておりますように複式学級という状況が今まで美浦村ではなかった。他市町村のいろいろなアンケートも参考にさせていただきながら作っている。浅野委員が疑問に思われる部分もあるかと思えます。回答を作っている側も、あえて残したところでございます。複式がいいのかどうかかなのかという部分、本当はAもしくは

はBのように選択できるのが1番わかりやすいんでしょうけど意向的な調査なものですから、仮に回答していただいてアンケートをまとめたものが、そのまま行政の政策に全部反映されるということでもないと考えております。

村といたしましても、このアンケートは要は未就学のお子様をお持ちの保護者の方のお考えをお聞きして、村としての方針を定める一つのデータとしてですね、生かさせていただければという思いがございます。少しグレーの部分が残っているところがあるのは私も同じでございます。

浅野委員

この②と③が何を言いたいのがよくわからないのですが、だったら「複式学級でも良い」のところに「そう思う」「だいたいそう思う」「そう思わない」というような選択肢をつけるとか、選択肢は1と4にしておいて「複式になるのだったら統廃合もやむを得ない」、「そう思う」、「あまり思わない」みたいな選択肢のほうがわかりやすくないですか。②と③がどういうことを言っているのがちょっとわからないです。もしグレーの選択肢をつけたいということだったら、もうちょっとわかりやすい文言にしていただけたらと思います

もう一つ、基本的なことをお聞きしたいのですが、このアンケートの結果は公表されるものですか。

教育長

公表したいと考えています。

アンケートを行った結果を踏まえた上で、こういった形で今後考えていくかというところを、村民の皆さんに諮っていくことになると思いますので、結果については公表したいと考えております。

あとは先程の問6のところですね「教育委員会では」のところ。実は私も迷いました。教育委員会、いわゆる美浦村の教育委員会でのこのことについての判断というものをしてきたわけでもなく、それについてこういった形が望ましいかということ正式に議論しているわけでもないの、ここを確かに書きぶりとして、間違いが一番ない書き方であれば「国では」とか「文科省では」という言い方が適当ではあるかなと思うんです。この部分については考えたいと思います。

栗山委員

問5及び問6についてなんですが、質問の部分でこういうふうな書き方だとちょっと複雑化しているというか、アンケートを書く側からしても、その自分の地域によって意識が違っていると思うので、例えば21ページのアンケート調査にご協力下さいのところ、今、教育長がお話しされたようなことも含めて、美浦村の現状ですとか、国の施策としての考え方とかと

いうのも、文言に入れるなりして、こういうことが現状としてあるというのを踏まえて、自分の地区にかかわらず、村の現状を知りながらどうしてお考えなんですかというのを、ここで示してもらおうというのもどうかと思います。ご検討いただければと思います。

学校教育課長

栗山委員からありました部分ですが、先程のその前段の教育長の間6の冒頭の「教育委員会」という言葉を「文部科学省」という話、文科省の考えを集約すると、この2行を「文部科学省では」と読みかえていただき「文部科学省では小学校の規模についてクラス替えが行われ、さまざまな団体活動も円滑に行うことできる1学年2学級以上の規模が望ましい姿と考えていますが」とすれば、今、栗山委員から国が考えているよということも、前文に入れたほうがという話もあったと思うんですけど、両方の考え方がここを「文部科学省」にすれば、一つの解決策にはなるのかなと思うんですが、いかがでしょうか。

栗山委員

そういったやり方もあると思うんですけども、あとは附属の資料ですが、なかなか皆さん忙しい中で全部読まれる方は少ないと思うので、少しはしょった形で、内容の説明があったりすると、より考えるきっかけというか、質問についての考えの一つの指南になるのではないかと思います。

学校教育課長

今いろいろ考えた一つの案でございますが、問6と問5の設問の順番を逆にさせていただき、問6が問5になりますから、そこで文科省の考えが出てきて、学校規模の話が聞かれ、最後問5を問6にして、実際の具体名も出てくる設問という形にさせていただきたいと思うんですがいかがでしょうか。

小峯委員

先程と、また重なってしまいますけれど、通常は問のところに具体名入れる間はめったにないです。総論のところ、そういった現状を伝えればいいわけであって、問は全部の地区に聞くわけですから、その問中に個別名が入ると設問としてはおかしいと思います。考え方はいくつもあると思いますが、私はそう思います。やっぱり、先程浅野委員が言ったと思うんですけど、自分の地区に関係ないという、そういう思いで回答することになってしまうからです。全部の地区に回答を求めるのであれば、それは総論の情報提供するところであればいいのであって、問の中に入れ込まなければその情報を隠していることになるよということにはつながらないと思うので、お考えいただいたほうがいいかなと思います。

教育長 今のお話を踏まえて、その安中小学校と先程山崎委員からもお話があった木原小学校の状況、その状況を状況の説明として前文ところに持ってくるかという話ですね。

学校教育課長 今の小峯委員のお話、前文のところ 21 ページの下から 7 行目「美浦村教育委員会といたしまして」書きぶりでございますが「このまま人口が推移する」のところを少し修正をさせていただきまして、ここに実際の安中小が発生すると思われる事案を書き込ませていただきたいということが一つ。それから、先程山崎委員からございました問 6 の部分でございますが、木原小、当然安中小も単学級でございますので、安中小学校及び木原小学校が既にもう単学級編成になっておりますといういいぶりや設問はちゃんと変えますけれども、そういう形で修正をさせていただき「教育委員会で」のところは、「文部科学省は」という形に変更させていただいて、問 6 と問 5 を逆にさせていただいた上で、問 5 の安中小学校の書きぶりのところは、基本的には削除という形をさせていただければいいかなと思うんですが。

浅野委員 総論がたくさんあっても、ちゃんと読まれないという可能性もあります。この間を見ますと、問 1、問 2、問 3、問 4 に関しては、内容とか施設に対してのアンケートで、その具体的な編成に関してその問 5、問 6 がありますので、問 5、問 6 の前に囲みで本村現状のような資料を入れていただいてそして進むと、より具体的に回答される方に考えていただけるのではないのでしょうか。総論が長くなると、またここを読んでもくれるかなという心配もありますので、こういった案ではいかがでしょうか。

教育長 私も今の議論をやっている中では、今、浅野委員がおっしゃったように問 4 と問 5 の間に、安中小学校、木原小学校の小学校の現状というところを四角で囲んで、書いて事実を述べた上で問 5、問 6 にいってもらおうというのが確かにわかりやすいのかなと。アンケート答える側からすると、ここに書いてあることを読まないで入ってしまう人も可能性としてあると思うんですよね。今いただいたご意見を踏まえて作り直してみても、皆さんにもう 1 回なり見てもらおうなりしますか。イメージがわからないといけませんから。

学校教育課長 イメージとしては、今、教育長から木原小、安中小という話がありましたが、小学校は 3 校でございますので、3 校の児童・生徒数の状況がわかるようなエクセル表を張りつけるような形で、問 4 の下に記載をさせていた

だく。また、先程私が申しあげましたように問5、問6を逆にする部分と、文言としても問6の方は「文科省」と直しながら、木原小、安中小の単学級の話も入れさせていただき、修正したものを各委員に確認いただきたく、持ち回りで私が歩かせていただきますので、その場で確認をいただければと思います。

浅野委員

問1なんですけれども、先程公開するのかどうかお伺いしたのは、この問1の回答の選択肢が①から⑩番までありますが、これは何かたたき台や資料があって、こういった選択肢があるのですか。

学校教育課長

こういったアンケートはさまざまな市町村が行っておりまして、私どももそれを参考にさせていただきながら、説明の中で申しあげました美浦村教育振興基本計画の根幹の部分、社会力に関する部分を1問目に持ってきたり、若干文言の修正は当然しているところでございまして、設問に関して回答していただいて、その1番多かったものを、美浦村が優先して行うかということ、決してそういう意図があってやっているものではございませんので、そこは誤解なさないようお願いしたいと。実は議会全員協議会でも出た部分でございまして、例えば⑩番、インターネットや情報を活用する教育というのは、実は今まで美浦村が一所懸命やってきたと思っているところでございまして、これを今後の保護者の方々がどう思っているのかもわかるということと、美浦村教育振興基本計画が、来年度が前期から後期に入る見直しの年度にも入ります。そういう意味で後期計画を作っていく流れ中で、そのアンケート、直接云々ではないですけれども、基本的な意向として活用させていただければと思っております。

浅野委員

そうだと思います、私は回答する側と結果を受け取る側と両方で考えてみたんですけれども、社会力を育てる教育というのは、教育委員会で立ち上げている大事な教育目標だと思うんです。それを選択肢の中に混ぜて、しかも3つ回答なので、極端な話これから就学される方だったら基本的な学力とか、マナーを学ぶとか体力をつけるとかそういうところを選ぶと思うので、社会力が選ばれなかったら、それをどう受け取ればいいのかなど。また、それを公開されるというのはどうかなと感じるんです。それでここに「社会力とは」ということがありますけれども、特に就学前の若いご父兄だったら、そもそもご存じない方かもしれませんね。そうすると、この選択肢の中に入れるのではなく「社会力を知っていらっしゃいますか」とか、これは別建てでね。このアンケートで評価されるものではないと思うんですね。選ぶという選択肢の中に入れるべきものじゃないので

はないかと。美浦村の教育委員会としてこれに取り組んでいるわけですから、それを選択肢に入れないほうがいいんじゃないかと。入れるならば逆に、別建てで社会力とはこういうものです、ということで「推進してほしい」とか「よくわからない」とかそういう選択肢で選んでいただくと、支持されているんだとか、まだ浸透してないんだなっていうことが、我々としてもわかるっていう、そういったものじゃないかなというふうに感じたので質問させていただきます。

教育長

この社会力の項目は当初入ってませんで、私が入れるように指示しました。というのは、村の美浦村教育振興基本計画の中の根幹に据えてとやっていて、これについて逆にですね、これから入学するご家庭の方がわからなかったら、もっと社会力というのを前面に押し出して教育をしていく、PRっていうんですかね。それをしていくべきだろうというふうに自分は捉えようと思っていました。また、これが浸透していたということであれば、それはそれで美浦村教育振興基本計画の趣旨が伝わっているんだというところですね、社会力自体を根幹にすえてやっている以上はこれは聞いてみたいという意図がありました。

浅野委員

この枠じゃないところで、聞くことはできないのですか。

教育長

社会力についての評価として「知っていますか」「知っていませんか」というような問をですか。どうでしょう。

浅野委員

ではこの「社会力とは」の枠はこの①の上に持ってくるべきではないかと。

教育長

そうですね。社会力その説明はね、確かに上に持ってきてきましょう。

学校教育課長

まずこのアンケートの対象がですね、全村アンケートではございませんで、あくまでもこれから小学校に入ってくるお子さんをお持ちの親御さんが、小学校に対してどういうイメージを持たれていてどういう教育を望んでいらっしゃるんですか、という設問です。その中に社会力というのはどうなんだという浅野委員のご指摘だと思うんですけども、美浦村で教育設問する中において社会力という単語、教育長が言われるように入れないという選択肢もなかなかございませんので、ここはここで入れさせていただきたいと、あくまでも教育長が先程申し上げましたように、今回の回答

が全て次期の教育振興基本計画にそのまま反映するなどは、対象も違いますし、村の教育委員会といたしましても、そこわかっているつもりでございますので、小学校にこれから入ってくる親御さんの教育に関する思いであったり、後段の本題本質の部分の学校の規模であったり、複式学級の問題に対する意識を調査するものでございますので、そこはご理解いただければなと思います。

山崎教育長職務代理者 アンケートの集計のところで教えてほしいのが、関連などは見ますか。

学校教育課長 問のAからCが先程申し上げましたように、回答する方の属性でございます。それとア、イがお子さんの属性。それに対して1から7という、7はクロス集計できませんけれども1から6に関してはできるだけ関連で出したいと思っています。

山崎教育長職務代理者 関連の中で子どもがね、何人いるかというのが書いていない。1子、2子、3子というのがなかったのでそれを入れるかどうか。なぜかという、子どもが何人かいる親御さんと、初めての子どもの親御さんの考えとか、その関連は見る必要がないかどうかというのがあって、そのままここに出てくるアンケートの調査をした結果だけを見ますという場合には必要ないですが、そういう考え方の変化的なものを、関連としてとるかどうかなんかの作る段階で考えたかどうか。

学校教育課長 このアンケート回答表27ページ、上から2ブロック目の問ア、ここがお子様がどの年齢に属しているかになります。山崎委員の質問にありました上の子が既に小学校に行っている人と行っていない人、あるいは未就学児だけがいるかないかというところまでの分析は、今回は実にご用意をしておりません。あくまでも未就学児をお持ちの保護者の意向の調査をさせていただくというスタンスでございまして、先程ご説明の中でも申しあげましたけれども、上の子が小学校、あるいはもう中学校の子の方の回答と、誰も小学校に入らなく、例えば3人いたり、1人だかはわかりませんが、そういう保護者の方の回答で若干質が違うことは覚悟をしているところでございます。

教育長 いただいた意見を踏まえアンケートについては、もう一度修正し、修正したものを学校教育課長が各委員の皆さんに持ち回りという形で見ていただくということにしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【報告第2号 小学校教育に関するアンケート調査について】

報告終了

【その他】

【美浦村村内小中学校 教員の働き方改革について】

教育長

教員の働き方改革について、平成29年の第5回8月での教育委員会でございでしたが、そのときに各委員の皆様から働き方改革についての意見をいただいた時にお話いただいた項目12をです、議事録からピックアップしまして、作ったものを校長会に提示しまして、それを踏まえ各学校の校長先生がそれぞれの評価といいますか、考え方を述べていただいたところをまとめたものが、真ん中の校長会の意見というところでもあります。それを踏まえ来年度に向けて教育委員会として働き方改革として実施していく、あるいは実施がまだ難しいのかなというところを書いた欄が1番右側の取り組み案ということでもあります。ゴシックの文字は実施していく、あるいは今現在進行形でやっているというところで、明朝体の薄い字のところですね、こちらは来年度での実施というのはまだ難しく、今後の国なり県なりの制度の状況を見据えてというようなことで、1回一旦整理させていただいて、この案という形で示させていただいたものであります。

小峯委員

アンケート結果の部分で、少し私見を述べさせていただきます。その後、私のほうで今日お配りした資料にも触れながら、少し私なりの考えを説明したいと思います。まず校長会の意見のところですが、例えば4番のところ「スキルアップのためより多くの研修の参加を考えるべき」という部分で、研修の結果を実務に反映させる環境づくりが必要と、こうあるわけですが、とすると、今までの段階でこうした研修が実務に反映されてないというふうに読みとれてしまうんですが、この辺はどうなっているのか教えてください。それから5番のところは、教育委員会からのアドバイスもあったほうがよいということで、研修の部分ではやはり少し課題があるのかなというふうに受けとめたところでもあります。この辺のところ、現状の研修について課題等でわかっている部分があれば教えていただきたいと。それから6番のところ、部活のため定時退庁は難しいというところがあるんですね。だからこそ、働き方改革していこうとしているのに、もう定時退庁は難しいという、そういう校長会の意見が出たというのは、問題があるなというふうに受けとめてしまいましたが、この辺の現状はどうなのかなという部分ですね。7番のところ、個票に記録する取り組みという部分では、これは

どの学校というよりも取り扱いがこの後どうなっているのかなというあたりが気になったところですね。こうしたことで、見える化を図っているという部分については、非常に良いのかなというふうに思ったんですが、取り扱いの部分で問題がなければ、そういう方向で教えてもらいたいと思います。9番のところで、決められた時間を超えて云々とか、19時30分までの2本立てとか、これを読むと非常に管理職の意識が結局変わってないなという部分にちょっと危機感を持ちました。この辺についてはやはり管理職への意識づけが必要なのではないかなというふうに思ったところであり、それから10番では、ぜひこんな方向でやってもらえるとありがたいなど、取り組みのところで非常に思ったところでもあります。来年度早速にこういった方向でいければいいのかなというふうに思います。あと11番のところは、またこの後に私なりの資料説明をさせていただきます。その他のところで、長期休業中のフレックスタイムの導入というのは、これはぜひ取り入れていく方向で教育委員会と考えてもらいたいかなというところでもあります。2枚の校長会の意見から感じたところを述べました。では、私のほうで配らせてもらったものについて、ざっと説明をさせていただいて、先程疑問に思ったところについての説明をいただけるとありがたいです。まず、平成29年度の市町村教育委員会研究協議会、これは再掲ですが、前回十分な説明ができないまま提示をさせていただきました。この他に実は次の「子どもと向き合う時間を充実させるために。学校運営を見直して校務の効率化を図りましょう」という、これはやはり働き方改革につながる事例なんですね。茨城でこれだけいろいろな取り組みをこうやってきているということは非常に参考になるのかなと思ったものですから、資料として添付させていただきました。この中の例えば坂東市東中学校なんかは、この報告の中にも、具体的に出てきた学校名ですので、こうしたところでの取り組みというのは非常に参考にできるのかなというふうに思ったところでもあります。それで部活動指導員の概要については、前回も配付させていただきましたのだけれども、部活のところでの問題点は、アンケート結果からも明確なように部活をやりたい教員にとっては問題ないんです。でも、部活の技術指導ができない、割り当てられている部活を時間外まで面倒見なきゃいけない。ここに大変なストレスがあるということは、調査から明らかなんですね。ですからこの辺の部活を本務にすえなくてはいけない現状からすると、前回、今回のこの2枚目のアンケートにもありますように、質問欄のクエスチョンとして、強い部活動は5時まで、クラブで8時までやるよという中で、その次のところでは、部活をやりたいとして教員になった人もいる一方、知識技術のない人は高いストレスを感じてい

ると。この辺のところはやはり大きな問題なのかなというふうに思います。ですから、単純に部活動指導員を入れるということは、現状、人的な配置については難しいということはよくわかりますので、今後の美浦村として教員の働き方改革、特に部活動のところでの技術指導のできない教員、それから部活をやりたいとしようがない教員、この辺の落差をどうやって埋めていくかというのは、やはり非常に重要な検討事項かなというふうに思います。それで、資料の最後になりますが、茨城県の学校教育指導方針の中に、学校教育の充実で、こうした体育スポーツ活動におけるさまざまな方針があり、今年の3月に部活動の指針が出ているようなので探したのですが、見つからなかったもので、こちらのもっと広い分野での資料提示になってしまいました。こうした形で、体力アップという点での部活動は重要だと思いますが、教員の勤務が超過になっている部分というのが、やはり部活動にも非常に大きな業務負担があるということをとらえて、今後どうしていくかというのは、検討すべき内容かなというふうに思いましたので資料提供させていただきました。

教育長

今お話しいただいた中で、まず校長会の意見についてのお話ですね。4の研修会の参加のところで反映させる環境づくりが必要である。これは今が全くできていないという意味ではなく、これをよりプラスアルファ、さらに高めようという意味での内容かなと、私が話をした限りではそのように解しました。ですからここはきっと毎日とはいう意味だと思うんですけどもね。美浦中でも部活をやらない日を決めていますので、いずれにしても校長会でも、月に1回、各学校です、それぞれの実情に応じて、曜日、時間を決めてですね、それを来年度から実施していくことはできるんじゃないかということなので、逆に大きく、例えば週1回、週2回というのを義務づけてしまうと最初から負担になってしまい、本末転倒になってしまうものですから、まずは、来年度1カ月に1回、必ずそういったところを各学校で決めてやっていくところから始めてみたらどうかというふうに考えております。あとは7番の時間の見える化ですね、これは取扱いというのは実際のやり方としてはエクセルの表に何時に帰ったかというのを入れるようです。ある程度の時間以上になると、色分けして自分がどれだけ時間外と言いますか、勤務時間外にいたかというのを見える形にしているそうです。それをやることによって何かをさせるとかということではなく、まず把握するためにやっているということであるので、まずは意識づけというところだと思います。これについては、いろいろ議論があって、タイムカードを導入したらいいんじゃないかと言われているところであ

るんですが、まずは時間の意識というか、どのくらい自分はやっているんだというところ。それぞれ先生たちに考えてもらう動機づけというか、意識づけする意味では、1回やってみたらよろしいのかなというふうに私は考えました。あと、長期休校日の話ですね。お盆の期間中の前後とかですが、これについては、各先生方も非常にありがたいという話でした。ちょうど山の日が8月11日にあるものですから、山の日からお盆の15日あるいは日曜日からめば16日まで、一挙にとることが可能だと思いますので、これについては来年度はぜひ打ち出して、実施をしていけたらというふうに考えた次第であります。最後、部活動の指導員の話ですね。小峯委員から資料出していただきましたが、確か県の保健体育課でも来年度から試験的に指導員を派遣して、モデル事業を考えているような話が今年度当初にありましたので、おそらく来年度はどこかの学校に投入が始まるのかなと思います。それについては、結果を教育長会にも報告してもらいなりして、これについてはちょっと長期的な話になってしまうかもしれませんが、意識を持ちながら見ていかななくてはいけないかなと思っている次第であります。

山崎教育長職務代理者

時間がどうのとか、そういう話は全部出ているんですけども、最終的に毎日が定時退勤だと思うんですね。そういう意識を学校全体で持つことが大事だと思うんです。あまりにも仕事が多いから、そして遅くまでやっているからというようになっていきますけども、職員には毎日が定時退勤というような意識を持ってほしいということが大事だと思うんです。そういう話をする必要があるんじゃないかなと。特に冬の時期は日が暮れるのが早いですから、先生方も早く帰りやすいんですね。そういうところから意識づけを図ってってもらいたいと思います。あと活動の指導者に関しては、やはり部活動を指導している先生方の生の声が届くかどうかなんですけども、私も実際に中学校で部活動やっていて、部活動の指導顧問をお願いする立場だったこともあります。その中で「自分としてはこういうような技術的なことはできない。そういう時はどうしましょうか」と相談をうけて、誰々さんもいるよ」というようなアドバイスをしたことがあります。また、柔道の顧問をしていた時ですが、私は柔道の初段をもっていますが、それでも子どものほうが強い事がありました。その時は子どもをそれなりのところに連れていきました。具体的には高校につれていって、高校の先生に教わったこともあります。ですから、顧問の考えとか顧問がどういうふうに働きかければいいのかという相談を受け入れられるような

システムのなものも必要だと。実際に校長先生、教頭先生が頼むというよりは、顧問の本当の切なる言葉が届いているかどうか。

そこをきちんとやっていけば、顧問の先生から言われた時に、その部活指導員をもらうとかをお願いできるような形がとれるんじゃないかと思えます。あと土日のどちらかを休養日とする件は、これは大賛成です。昨日テレビを見ていましたら、日比谷高校はずいぶん部活動を積極的にやっていますが、土曜日か日曜日のどちらかは休むそうです。やはり、いろんな効果を考えると、部活動を推薦していますとは言っていましたが。そういう面でも、休むことも大事だということは子どもにも教える必要もあります。

ただ、これが教育委員会からの押しつけになってはまずいと思えますので、そういう点をやはり学校内で考えてほしい。また、うちの村の実態として部活動やっているのは中学校だけではないですよ。大谷小は吹奏楽があります。安中小は太鼓はどうですか。クラブですか。保護者の考えも含めて部活動の運営をしていますから、そのところも考えていく必要があると思えます。小学校はスポーツ少年団に移行していますから、スポーツ少年団で考えますから、学校とは切り離し考えられる部分があると思えます。最初に戻りますけどもやはり顧問をしている先生方の考えを尊重しながら、ただしその根底には毎日が定時退勤だよというようなことを、やはりうえつける必要があると思えます。

教育長

では、今いただきました意見を踏まえ、また校長会とも話し合いを持ちまして、来年度働き方改革で、実際に打ち出していくというか、実施に向けてどういったものが可能かというところ今年度中にまたお諮りしてですね、決めていきたいと思えます。

#### 【近隣市町村の学校統廃合の現状について】

浅野委員

ちょっと戻りますけれども、お隣の稲敷市で複式から統合になったりした例があると思うのですが、その辺の経緯をわかる範囲でお聞きしたいんですが。

学校教育課長

近隣市町村で合併をやってないのは、牛久だけでして、稲敷市も阿見町も計画をつくって統廃合、複式の話と統廃合の話は別として、きちんと計画を作った上で統廃合を進めていっております。ただその計画通りに進んでいるかというところ、稲敷もたぶん1年遅れで桜川が行っていると思うんです。

けど、当然地元の皆さんにきちんとして説明をして、新設なのか統廃合なのかによって、全く合併の仕方も変わってきたりしていますので、1番近いところでは稲敷市の鳩崎小学校、君賀小学校と一緒に江戸崎小と合併したとか、阿見は新設校が1校できる話と、吉原と実穀が合併する話と両方並行しています。今この学区の区分けが大変なようで、小学校の問題というのは、いろんな地域の問題もあります。利根町は合併が一通り終わり、河内は今度小学校が統合になりまして、小中の1校の学校で河内の小中学校は全部統廃合になるということは、わかっているところでして、ただそこに至るプロセスはどこの市町村も時間をかけ、こういうアンケートもしかりですが、当然委員会を構成したり、地域に説明会をしたり、また、実際に合併すると決まってからも、新設であれば学校の校歌、校章、校旗などいろんなことを決めてく。また、校舎を新築するのか、既存の校舎を使うのか。桜川の場合ですと校舎は造るけど、グラウンドは欽ちゃんグラウンドを使うとかですね、どの市町村も財政的に非常に厳しくなっておりまして、新設校を造って、グラウンドも全部造ってという河内のようなやり方はなかなかできないのが現状だと思います。稲敷市の、さっき言った江戸崎小は、そのままの校舎、グラウンドに鳩崎小と君賀小を持ってきている形になりますね。まるっきり新設というのは例えばひたち野うしくの中学校とか、あとは荒川本郷ですね、荒川本郷は純粋に子どもの数が増えていますから、1校造るんですが、もともとの本郷小の区割りで大変だとか、学校の問題というのはアンケートで決められる問題ではなく、かなり大変だということで進めております。

浅野委員

鳩崎小学校とかは複式で何年か経過してそれから統合されていたような結果ですか。

学校教育課長

複式だから云々というのは全く別の問題でして、学校規模をどのように市町村が考え学校をどのようにしていくかという市町村の考え方、それと複式は、今回の桜川もそうですし、君賀小学校もそうです。複式学級だから、学校がなくなってしまうというものでも全くないということです。ただその複式学級に関しては、附属資料にもございますけれども、本来きちんと複数の学級同1学年で構成していれば、さまざまな活動で子どもたちが切磋琢磨し、クラス替えもしながら、6年間を過ごして行くパターンと複式学級ということは本来1学年でやるべきものを、1つの教室に2つの学年を入れて1人の先生がやりますから、当然別のカリキュラムをたてたり、さまざまな問題があるということです。ですから、その複式でやっている学校の問題と、学校のあり方をこれからどうするかっていうのは全

く別の考え方です。アンケートの間5と間6を別にしてしているのはそういう理由です。学校規模に対する皆様の考え方ですとか、複式学級に対する考え方はどうですか。ということで分けて設問しているということでした、複式学級の評価と、学校統廃合をどうするかというのは、別の話であると理解をしています。

浅野委員

複式か統廃合かの二者択一ではないっていうことですね。  
複式のままだって学校もケースとしてはあることですね。

学校教育課長

問5と問6が別れているのはそういう理由でございます。  
これはあくまでも小さいお子さんをお持ちの保護者の方の考え方をまずもって知りたいと。それをきちんと精査しながらこれからの美浦村の教育行政というものを考えていくというためのアンケートですから、このアンケートの結果で全部が決まるというものでは決してございません。

**【各校の教育活動の現状と課題についての情報提供について】**

小峯委員

プリントの2番に書いた部分ですけど、各校の教育活動の現状と課題についての情報提供をしてほしいと。子どもと向き合う円滑な授業運営を図るために、ということです。先程資料として、添付したものであります。各学校の先進的な事例を提供したわけですけど、本村の場合の小学校3校でいいんですが、現状と課題について教えてもらいたい。

指導室長

まず、校務の効率化ということに関して言うと、校務支援システム等に関しては3校同じような形で取り組んでいます。  
今年度、教頭会で木原小が自身の取り組みを発表してくださる場がありましたので、そういった点でお互いに効率化という点での共通理解等は図っているようなところなんです。校務についての効率化ということで、校務支援システムを入れて何年かたちますが、昨年度教育委員さんが訪問に行っていた時に、校務支援システムの不具合について、いろいろなところで話題になっていたかと思うんですけど、先生方も校務支援システムに慣れてきた部分と、システム上の問題も改善してきているので、変わってきているところがあるのかなと思っています。ただ実際にこれから進学指導、新指導要領の実施に向けて、要録であったり通知表であったりとか、そういった点については今教務主任会と連携をしながら、どうしていくかということを検討しています。

それぞれの学校の現状ということだと思いますと、まず今年度、全国学力調査であったり、学力診断テストの分析を踏まえていただきながら、学校の課題を明らかにし、教務主任会などを中心に学力向上推進委員会で検討させていただいています。そういった中で、授業研究に関して言うと、今年度は木原小学校が金融教育でご協力いただいたキッズカンパニーですね。今月 19 日に最後の納税が行われますが、金融教育をメインにして実際学年でやっているのは 6 年生ですけど、それ以外の学年でも、算数の時間であったりそういった形で取り組んでいます。また、今年度大谷小学校では、前月の教育委員会でも報告させていただいたように、稲敷郡と美浦村の教育研究会で課題、それから話し合い、そして振り返りのところをそれぞれに、視点を当てて授業研究を進めてくれています。

そういった中で授業研究を進める中で、この間も話したんですが、全員で授業公開を行ったということと、その課題を明確にして、そういったそれぞれのところでのポイントを明らかにして共通理解を図っていった関係で、授業改善は見られているのかなと思っています。安中小学校は、人数が少ない中で、表現力などが安中小学校の課題だということは学校でもとらえています。

その一つの原因がやはりどうしてもその手が入ってしまうために、子どもたち同士というより教師と子どもでのやりとりが、出てきてしまっているところがあるので、授業などを見させていただいたところは、もうちょっと先生たちが引けるような環境ができるといいですねというようなことで、本当によくやってはいただいているんですが、その辺のところの授業改善が一つのポイントかなということで、話をさせていただいています。

小峯委員

校務支援システムを入れて学校運営を円滑にする、その最大の理由というのは、そこにも書いたように、子どもと向き合って円滑な授業運営を行うということですね。ですからその辺が安中小学校は具体的に出てきましたけれども、ほかの例えば木原小とか大谷小では、このことで子どもと向き合ってしっかり授業なり生活指導なりができていのかどうか、この辺について教えてもらいたい。

指導室長

校務支援システムということかというと、事務処理の負担軽減につながってくるところ、それで子どもと向き合う時間ということだと思んですが、1 番はやはり人の配置の部分で、少人数指導等の村でのサポートをしていただいている部分が子どもと向き合う時間に間違いなくつながっているところがあると思います。ただ現実問題として、1 学級の人数が木原小学校の場合だと、35 人以上の 1 学級という状態になっています。

そうなるとう県の非常勤がついたり、村の非常勤がついているという状況にはなっているとは思いますが、その人数的な問題と先程から出ている部分とが現実問題としてもかかわってくるかなと思っています。

大谷小学校も、3クラスあるところと2クラスあるところによってクラスの人数は違うんですが、やはり村の少人数であったり、県の非常勤の先生方を配置することで、1つの学級で2人の先生でチームティーチングであったり、少人数指導ということは、少しずつ成果としては上がってきている部分があるかなと思います。当然そういう部分で子どもと向き合う時間というのはできているのかなと考えております。

小峯委員

この辺の問題点で、各学校から情報が上がっているってことないでしょうか。指導、授業指導の場面での問題点は、教育委員会に上がっておりませんか。

教育長

今の校務支援の話であればシステムの話と直接的な話ではないですけども、夏に村の教育研究会の中で木原小学校が報告していましたが、いわゆる学校の中のいろんな手続なりそういう事務的なものの様式を自分で設定してですね、エクセルなりワードでつくって掲示して、そこに入れ込んで、他の先生方のそういった手間というか、時間を極力省力化して、統一的なやり方で進めていくという事例が発表されてましたんで、結果的に子どもと向き合う以外のそういった事務的な作業の時間というのが、縮減につながっているでしょうから、そういった意味では効率化の考えというんですかね。それは各先生方、特に教頭先生方が核になってくるとは思いますけども、持ってやっていっていただいているのかなという感触は私としては持っています。